



八尾市議会議員
西川あり

発行:西川あり 八尾市本町2-2-23 TEL/FAX 072-923-0293

昨年の地方統一選挙で当選させていただき、新年を迎えさせていただくことになりました。

わずか8ヶ月ほどの議会経験ですが、より市民目線、女性目線、保護者目線で捉えるように努め、今まで培った人権感覚も駆使しながら活動してきました。しかし、考えていることを、言葉にしたり行動に移すのは難しいこともあるのだと実感しています。今後は自分なりに深く関わりたい「いじめ」「虐待」「子育て」「社会にある障壁」などの課題に、積極的に関わっていきたいと思っています。

本年もよろしくお願いいたします。



ホームページ

八尾市議会文教委員会報告

9月

定例会

中学校給食について

廃園した施設の活用や中学校給食の全員喫食についていくつか質問をさせていただきました。中学校給食の全員喫食については、環境整備等に係る財源の確保が難しいことや残菜問題への対応策や今後の見通しが不透明なこと、そして多くの当事者である子どもたちが家庭弁当を希望している現状への対応に疑問が残り、賛同することはできませんでした。

体育館クーラー設置について

避難所利用を想定するのであれば、体育館よりも区割りされた特別教室のほうが使い勝手がよいと思われます。限りある教育予算をどのように投入するかを考えたときに、児童、生徒

教職員が直面するさまざまな課題、いじめ、不登校、学力向上などに対応する環境整備や人的支援に優先的に向き合っていくべきではないかと考えました。

虐待対応で質問！

これまで取り組んできた児童虐待防止の経験から、市としての現在の対応策や保護者へのケアについてなどお聞きしました。現在は主に東大阪子ども家庭センターが虐待のケースの指導やケアを行っており、八尾市としては、一緒に見守りながら、その時々に必要な支援を行なっているそうです。今後も、全ての子どもが安心して暮らせるよう、子どもの声や保護者の声をきかせていただき、考えていきたいと思います。

12月

定例会

「かがやき」指定管理について

2020年4月から5年間、八尾市生涯学習センターの指定管理者の変更の件について、市民に寄り添い型のいろいろな自主講座の引継ぎや、障がい者雇用についてお聞きしました。

現在行っている講座も、基本的には継続の形で進めていただけることを確認し、障がい者雇用に関しては、指定管理者より随時報告してもらうことになっていると報告を受けました。これまでの良い部分も残しつつ、どの世代からも慕われる生涯学習の場となるよう、見守っていきたいと思います。

虐待対応について

保育施設での虐待事例が発生した時の対応や放課後児童室の施設環境について質疑があり、行政の方から現状の確認をいたしました。

待機児童解消や保育無償化への対応が中心になりますが、在宅育児をされている家庭が置き去りにならないよう、在宅育児支援にも引き続き、しっかりと充実した対応を求めています。



文教委員会視察

2019年11月7日 静岡県磐田市

2019年11月6日 千葉県船橋市

児童相談所設置への研究

船橋市は「児童相談所」の設置を目指す中核市です。虐待防止策については、今年度の文教常任委員会の調査項目になっており、家庭児童相談室への相談・通告件数や、抱える課題、通告について、児童虐待への対応について同市を視察しました。日々の相談対応など以外にも、啓発や養育支援訪問事業なども行われています。

その中でも、親支援のために、不安軽減のためのグループワークと、暴力にたよらない子育てを学ぶグループワークが開催されており、受講しやすさや仲間づくりへの支援など、虐待予防に効果的だと感じました。

「ひと・ほんの庭 にこっと」訪問

相談機能・情報発信・図書館機能を持った施設で、子育て支援講座、子育て相談・子育て世代の就労支援・読書推進活動・学習会や手話講座などの自主事業などを行なっています。また、中学生のスタートアップ応援事業をスタートさせ、貧困対策の中で格差是正のために入学準備に使える商品券の支給を行ないました。保護者にとっては、経済支援となり、子どもにとっても大切にされている実感のわく直接的な応援であると感じました。拠点施設の整備において、全体へと、個々への支援のバランスが重要です。



八尾市行政視察

2019年11月18日 三重県名張市

名張版ネウボラ※

安心して妊娠・出産・子育てできる総合的な切れ目のない相談・支援の場や仕組みへの取り組みを推進する「名張版ネウボラ」について行政視察を行いました。名張市では教育センターと子ども発達支援センターを合築した、「子どもセンター」を運営しています。

産前産後ケア・入園入学に合わせたサポートや検診、地域に根ざした相談（まちの保健室）から、センターへの専門職への連携など、きめ細かい仕組みになっています。特に5歳児検診を行うことで、就学前の適正発見に努め、受け皿となる発達支援の仕組みが充実していることは、子どもやその保護者の利益につながります。

八尾市は中核市になり、児童相談所を設置することが可能になりました。結果を数字で効果測定のにくい分野ですが、子ども・子育ての課題を社会化し、市として最優先に取り組んでいくことで、産前産後ケアや発達支援はもちろん、虐待、いじめ、不登校などの課題への細かい対応や予防対策にも期待できます。八尾においては、親学習なども専門家と市民との協働することで、保護者のエンパワメントも含めた八尾方式の構築も可能と考えます。児童相談所の設置は簡単なことではありませんが、強く要望したいです。

※フィンランドにおける、妊娠期～就学前の子どもを持つ家族を対象にした、地域の健診・相談支援の拠点。“neuvola”とは、「相談（neuvo）の場」という意味。



市川房江政治参画フォーラム2019参加 10月18日・19日

上西充子さんの講演「統計と政策～統計リテラシーを高めよう～」では、情報の扱い方の大切さを実感しました。

朝ごはんは食べなかったんですか？

ご飯は食べませんでした。（パンは食べましたが、それは黙っておきます。）

何も食べなかったんですね？

何も、と聞かれましても、どこまでを食事の範囲に入れるかは、必ずしも明確ではありませんので…。



ご飯論法とは？

意図的な「論点ずらし」や「はぐらかし」などの不誠実な国会答弁の手法

藻谷浩介さんの講演

「若者流入の首都圏は栄え、過疎地は消滅する、は本当か？」

一番心に残った話は、過疎地の高齢社会が迎えた危機をどう民生的に乗り越えたか、という例でした。市会議員のなり手がなく、村民会議から若い議員が生まれた話。高齢化が早く進んでいた地域が高齢者が減り、現在子どもが増えているという話。共通するのは、「若い世代にとって地元に残りたい魅力や仕事があること！」に、大きく頷きました。